

スリランカのチラウの司教の呼びかけ

(Zenit 2019年4月23日)

先日起こったスリランカでのテロ事件を前にして、同国のチラウの司教 Warnakulasuriya Devsritha Valence Mendis 師が全世界のキリスト教徒に呼びかけた。「我々の国で平和と調和が回復されるために、皆様の祈りが必要です。私たち、並びに信仰のゆえに苦しんでいるすべてのキリスト信者のために祈ってください」と。

同司教は2019年4月22日に、「苦しむ教会への援助」の代表者たちと電話で会見し、同師が「人類に対する犯罪」と断罪した事件の後のスリランカの現状を伝えた。



復活祭のテロ攻撃の被害

司教によれば、最初の爆発は同国の首都コロンボにある聖アントニオ教会（スリランカで最も有名なカトリック教会で、あらゆる宗教の人々の巡礼地になっている国民的聖地）で起こった。その45分後、東の海岸にあるカトリックの聖セバスチャン教会で、さらに Batticaloa にあるシオンプロテスタント教会で起こった。

それと同時にコロンボで、欧米の観光客で賑わう三つのホテルが攻撃された。その上に昨日（4月22日）、スリランカのいろんな町で爆発があったが、幸いにも犠牲者は出なかった。「苦しむ教会への援助」によれば、今朝まで分かっているところでは、犠牲者は死者310人、負傷者500人に上っている。

スリランカでの迫害

「苦しむ教会への援助」の宗教の自由が集めている最新の白書では、ここ数年スリランカの教会は、Bodu Bala Sena や Sinha Le と呼ぶ仏教原理主義者のグループから攻撃を受けている。スリランカは人口の大半が仏教を信じる国で、キリスト教徒は全人口の9%あまりに過ぎない。

しかしながら、この復活祭のテロ事件については、まだ誰も名乗り出ていない。

「苦しむ教会への援助」の対応

「苦しむ教会への援助」はスリランカでのテロ事件に対して、イタリアにいる自分たちの協力者1万8千人に、聖アントニオ教会の再建のための募金を呼びかけた。

* 「苦しむ教会への援助 (Aid to the Church in Need)」・・・1947年、ピオ12世教皇の励ましを受け、Werenfried van Straaten神父によって始められた教皇庁の組織。目的は「この世界のどこであろうと、苦しむ教会、あるいは迫害に苦しむ教会を司牧的に助ける」ことである。現在17の国に支部をもち、140の国でプロジェクトを展開している。<http://www.acnuk.org/>